

どの子どもにも分かる授業 …… 教育環境を改善しよう

教室には、

- 情報があふれている …… 情報が、子どもの集中を邪魔することがある
- 同じ失敗を繰り返す子どもがいる …… 指導・支援、環境になじめない子どもがいる

特別な支援を必要とする子どもへの配慮は、すべての子どもへの配慮となる!

集中が続かない子どもへの配慮は、他の子どもにとっても集中の持続への支援となります。時間割の変更はできるだけ早めに伝えることで、変化に弱い子どもだけでなくどの子ども自分なりの見通しをもって安心して学習を進めることができます。

このように、特別な支援を必要とする子どもに対して教育環境、具体的には授業や教室環境を工夫することが、どの子どもにも学びやすい教育環境づくりとなっていきます。

授業を工夫しよう (例えば)

- 聴く活動を、少なくする。
聴く活動の長時間の継続は、誰もが集中しづらい。作業活動、少グループでの話し合い活動など、能動的な活動を取り入れた方がどの子どもも集中しやすい。
- スモールステップを取り入れ、メリハリのある授業を心がける。
45分、50分集中を続けることはどの子どもにも難しい。15分程度を区切りとした授業をすると、子どもは適度な緊張と弛緩を繰り返しながら、学習を進めることができる。更に、ステップが細かく設定されていることは、子どもが達成感を成就する機会が増え、自信をもつことにつながる。
- 考えをまとめ、表現しやすい発問を用意する。
△「太陽は、この後どうなっていくと思いますか。」
○「太陽は、この後東、西、南、北のどの方角に沈んでいくと思いますか。」
選択肢のある質問は、どの子どもにとっても答えやすくなります。

教育環境を工夫しよう ★ (小・中連携教育 こだいら共通プログラム「特別支援教育の推進」)

- ★ 授業展開の見通しをもてるように、1時間の授業の流れを示す (ホワイトボードの活用)
- ★ 授業に関係ない情報は、授業への集中の妨げとなる。掲示物を含めて、必要最小限の情報量にし、刺激の少ない教育環境をつくる (黒板の前面をいつも活用できるようにする)
(授業に集中できるように、教室掲示の刺激を減らす)
- 指示を分かりやすい表現で簡潔にする。
 - ・できるだけ直接的表現を用いる。
掃除の時間になっても、掃除を始めない子どもに
△「今は、何の時間ですか。」 ○「すぐ掃除を始めましょう。」